

新しい年にあらたまりました。昨年はお陰様で衆議院選挙に当選することができました。それ以外でも、日頃のご支援を賜り、厚く御礼を申し上げます。本年もどうぞよろしく願い申し上げます。

**昨年末の臨時国会で、政治資金の問題に一定のけじめがついたと思っています。**企業献金等まだ課題があるのは事実ですが、旧文通費の透明化と余ったお金の国庫返納、これまで全く公開されなかった政策活動費の透明化、第三者機関による政治資金の監視など、それなりに前進しました。

他方、政治改革というのは、あくまで政治への信頼回復のための当たり前の話です。**安定した国会運営の中で、着々と経済運営、とりわけ今の物価高の問題などについて、政策を実行しなければなりません。**

私は農林水産委員会で、大枝の柿や亀岡の小豆が高温障害などで壊滅的になった実態を取り上げました。農家の皆様の収入保険への加入率が低いため、使い勝手をよくすることや普及に向けた説明などを要求してまいりました。

また、米価の高騰についても江藤農林水産大臣と議論を交わしました。この問題は、「消費者 vs 生産者」という単純な構図で考えるべきではありません。「米価が高騰すれば生産者が喜ぶ。下がれば、消費者が喜ぶ」というのは、一般論としてはその通りです。しかし、「令和の米騒動」については、そもそもなぜお米が不足

したのか。なぜ高騰したのか。説得力ある理由が解明されていません。したがって、**今後もお米の価格が高い水準で推移するのか、元に戻るか、よく分かっていません。**

ということは、一時的に生産者の収入が増えても、手放しで喜ぶ話ではありません。たしかに消費者は、お米農家が安い価格のせいで万年赤字となって苦しんでいる実態について、もっと理解を深める必要があります。しかし、**今回は、ここ30年の米価の平均水準からしても、あまりにも急激な高騰です。**これで消費者が輸入米に走ったり、米離れが加速してしまったら、元も子もありません。実際、海外からのミニマムアクセス米が多く買われている現状があります。

より冷静に、長い目で考える必要があります。お米については、1)適正な価格で、できるだけ国産のものを消費者に食べてもらうことが如何に大事なことか。2)しかし、一方で、適正な価格といっても消費者の負担を考慮に入れると、自ずと限界がある。3)だからこそ価格だけではなく、個別に農家を直接支援をすることにより、安定した収入を保障することも検討すべきです。

お米は主食です。台湾有事などいざという時に、海からの輸入がままならない事態においても、国民の食料を確保する必要があります。こうした**食料の安全保障の観点から、引き続き、今年も国会で声を上げてまいります。**